

平成28年度 事業報告書

- (1) 学校目標に基づく優先課題
- (2) 教育の充実
- (3) 学生募集
- (4) 学生支援
- (5) 就職支援
- (6) 要員・能力開発・組織編成
- (7) 施設・設備
- (8) 武蔵野ネットワーク
- (9) 地域貢献

専門学校武蔵野ファッションカレッジ

《概要》

(1) 学校目標に基づく優先課題

学校目標：『成長を把握できる仕組み作り』

「3つのポリシー」の整備と運用に取り組むことでルーブリック（学習到達度を示す評価基準）が整理され、「成長を把握できる仕組み作り」につながると考え取り組んでおり、平成29年度も継続して取り組んでいく。

教員ごとのばらつきを解消するために指導方法向上の研修を実施することで、ルーブリックの基本となる考え方と各科目の担当領域を把握する必要性を理解する機会となり、次年度以降における全教員の取り組みが期待できる反応であった。

(2) 教育の充実

【専門教育と社会人基礎力を融合した教育プロセス】は改善を加えながらの運用により成果を上げている。実践教育を掲げ『期間限定ショップ【incubate】』『incubate collection ファッションショー』『卒業作品展』を複合的カリキュラムの成果発表として学生が主となり運営している。しかし、以前に比べ学生の質が変わってきており、社会状況に合った人材育成となるための教育手法の更なる進化が課題である。

(3) 学生募集

学校が抱える一番の課題は出願者獲得である。参加者と在校生との交流を図ることに注力し、教員が一人の参加者に対して集中して対応したことが、歩留率向上に効果があったと見ている。数年前と比べ歩留率は向上しているが、残念ながら目標を達成できなかった。課題は歩留率の更なる向上と体験入学の参加者を増やすことだと捉えており、SNS等を利用した教務部からの情報発信に力を入れていく。

(4) 学生支援

「学費納入の問題の早期相談への声かけ」を丁寧に行ったことで、特に学納金に関する問題は例年よりスムーズに解決された。退学率を前年より抑えることができたが、継続して退学率を下げる努力が必要である。現状では学生が抱える問題の早期発見が一番の特効薬であり、教員が学生とのコミュニケーションを丁寧に行っていきたい。

学生の満足度に関しては卒業時にアンケートを実施しているだけでなく、面談を行うことによりアンケートでは分からない意見を確認しており、ほとんどの学生が「少人数制」を望んでいると把握している。学生一人ひとりを大切にする運営を期待して本校を選んだと考えている。

(5) 就職支援

大手企業を中心に販売職の採用には大変積極的であり、売り手市場ではあったが、十分な採用試験対策をして臨まないと内定獲得はできない状況である。また、内定獲得が難しい学生に対しては、学校側から本人の適性に合わせた企業紹介に力を入れる必要があると考えている。

(6) 要員計画・能力開発・組織編成

校長を含め9名体制の運営である。授業の他に学生募集に関する業務も多く行っている。職業実践専門課程維持のために各委員会の開催や企業との連携授業の交渉・運営といった新たな業務も生まれ、教員一人ひとりが業務の生産性向上と新たな業務への組織的対応が求められている。指導方法向上の研修を2回実施した。

(7) 施設・設備

現在使用しているマシンとロックマシンは老朽化しているため、東京都私学財団による教育環境整備費助成金を利用して3年間で更新する計画を立てている。平成28年度は2年目であり、マシン30台とロックマシン10台を購入した。

その他には校舎のエアコン更新による環境整備と、パソコン利用の授業増加に対応できるよう校内無線LAN設備を整備した。

(8) 武蔵野ネットワーク

『期間限定ショップ【incubate】』『incubate collection ファッションショー』『卒業作品展』の際には卒業生に案内を送付し、同窓生が集まる機会を提供している。

また、学生が充実した学校生活を送るには家庭の協力が必要不可欠であるため、学生に問題が発生や問題の兆候が出てきた際には速やかに保護者へ連絡し、支援体制の協力を求めている。

(9) 地域貢献

平成28年より豊島区国際アート・カルチャー特命大使に片桐芳子校長が就任するなど、豊島区や公益財団法人としま未来文化財団からの協力依頼に対し、学校の特性を生かした協力を今後も継続していきたい。

(1) 学校目標に基づく優先課題

①平成 28 年度学校目標

『成長を把握できる仕組み作り』

学生が自らの成長を実感し喜びを得ることで、成長するための努力の必要性を理解し、継続的に努力できる人材の育成に努めている。

②同目標達成のための、平成 28 年度優先課題への取り組み

【3つのポリシーの整備】

ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

「3つのポリシー」の整備と運用に取り組む事でルーブリック（学習到達度を示す評価基準）が整理され、「成長を把握できる仕組み作り」につながると考え取り組んでいる。

「3つのポリシー」は教育を行う側の教員と教育の受け手側である学生の双方に理解が必要であると考え、常勤教員・非常勤講師・学生達にカリキュラムマップを用いて全員の共通理解を作っていた。また、常勤教員・非常勤講師には改めて各科目の学習到達目標を提示し、到達目標と担当領域の理解を促した。

ルーブリックについては教員ごとに取り組みにばらつきが出てしまった反省があったため、指導方法向上の教員研修として実施した。学生が「具体的に何を身につけるとそれができるようになるのか」というルーブリックの基本となる考え方と、評価する上で各科目の担当領域の把握する必要性を理解する機会となり、次年度の全教員の取り組みが期待できる反応であった。

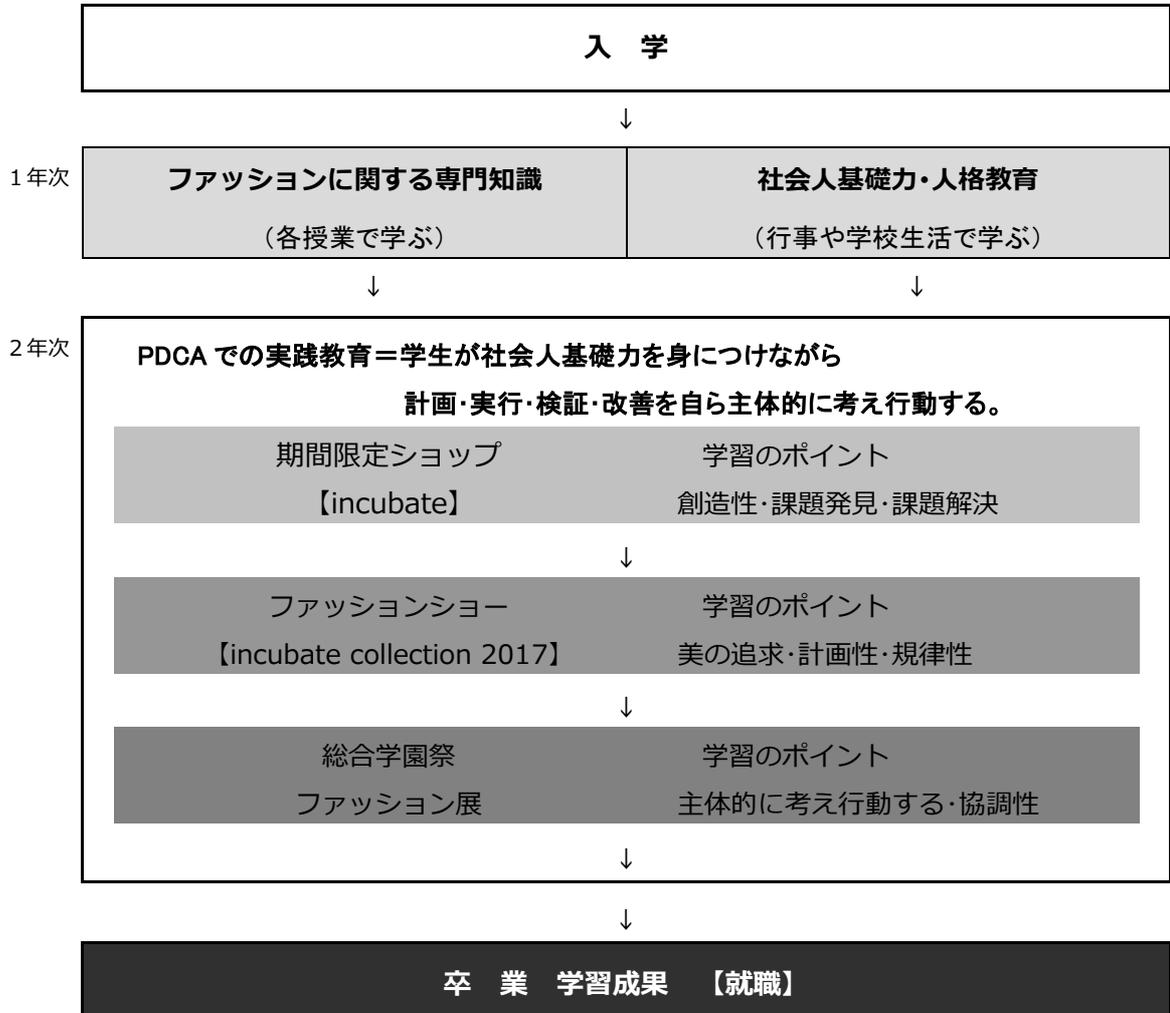
<課題>

「3つのポリシー」の運用については、教育目標・カリキュラム・就職・予算等、総合的に教育活動を運営していく組織構築を常に検討していく必要がある。

「ルーブリック」導入に関しては、短期で完遂できるものではなく中期的に取り組むべきものであり、具体的にどのように準備を進めていくべきか、非常勤講師とのミーティングの機会を増やし検討していく必要がある。

(2) 教育の充実

【 専門教育と社会人基礎力を融合した教育プロセス 】



優れた人格と実践力をもった人材を輩出(就職先で評価される人材)

【実践力の定義】

本校ではファッションの専門性と社会人基礎力の融合した力と定義する。

ファッションの専門性 … 美意識・知識・技術・コミュニケーション

社会人基礎力 … 考え抜く力・チームで働く力・前に踏み出す力

<教育手法> 実践教育 ～ P D C A サイクル (plan-do-check-act) の実践

14年前より実践教育を掲げ『期間限定ショップ【incubate】』『incubate collection ファッションショー』『卒業作品展』を複合的カリキュラムの成果発表としてP D C A サイクルに法って行ってきた。その効果により年々作品のレベルは向上し、カジュアルファッションやリアルクローズの表現では一定の成果を上げるものとなっている。また、成果発表自体の運営を学生が主となり運営することで「社会人基礎力」向上の機会としても生かしている。

<学習成果>

期間限定ショップ【incubate】

この授業は販売業務実践の場だけでなく、目標を設定しその達成のために施策を考え実行し、検証することで改善行動していくというP D C A サイクル実践の場である。

前年度の運営を検証し、課題を見つけ解決することで年々向上していくものとなってきている。生徒たちには最初は戸惑いながらも、主体的に考え、行動することで「社会人基礎力」を向上させている。

ファッションショー【incubate collection】

「奇をてらう」ことがファッションデザインと捉えられがちであるが、ビジネスとしてのファッションデザインは「実用的なクリエイティビティ」の表現が必要であり、「価値を決めるのは着る側である」ことを理解しておくことは大変重要である。本校では14年前よりスタートした【incubate collection】をきっかけに、そのような視点でのファッション教育を踏み出しており、着る側を意識した「実用的なクリエイティビティ」の教育成果発表の場としている。

<課題>

以前に比べ学生の質が変わってきており、学生達の受けてきた高校までの教育内容も昔に比べ進化している。社会状況に合った人材育成となるよう、本学の特徴・強みを見極め、教育手法の更なる進化が必要である。

(3) 学生募集

①入学定員及び学生数（平成 28 年 5 月 1 日現在）

科	修業 年限	入学 定員	入学 者数	収容 定員	平成 28 年度在籍者数		
					計	男	女
アパレル プロフェッショナル科	2 年	30	16	60	28	0	28
ファッション スタイリング科	2 年	60	48	120	84	14	70
ファッション マスター科	1 年	10	5	10	5	1	4
計		100	69	190	117	15	102

②オープンキャンパス歩留率等

施策として掲げた「在校生から学校の魅力が伝わる運営」は参加者と在校生との交流を図ることで歩留率向上に効果があったと見ている。また、教員が一人の参加者に対し集中して対応できたこともまた歩留率の向上につながったと判断している。個別相談の際に参加者の意向に対し、適切な対応ができる教員を組み合わせる工夫をしたことも効果があった。

(4) 学生支援

①退学率

学校全体としての退学率は前年度と比べると抑えた数値となり、目標内に収めることができた。退学抑止の施策として「クラス担任のコミュニケーション強化」と「学費納入の問題の早期相談への声かけ」を行い丁寧に対応してきた。特に学納金についての問題は財務部の協力もあり例年よりスムーズに問題が解決された。

退学率は前年より抑えることはできたが、継続して退学率を下げる努力が必要である。生徒が抱える問題の早期発見が現状では一番の特効薬であり、教員が生徒とのコミュニケーションを丁寧に行っていく。

②学生満足度

卒業時に満足度を測るアンケートの実施と面談による確認を行っている。

アンケートによると「武蔵野で学んだこと」「教員の学生への対応」に関して満足度が高いが、その要望に対応できた運営の成果であると判断できる。フ

面談では、ほとんどの学生が「少人数制」を望んでいると把握できており、学生一人ひとりを大切にする運営を期待して本校を選んでいると捉えている。

③資格取得

ファッション業界での就職を考えると資格が直接的に内定獲得に有利となることは少ないが、企業によっては学習成果として資格取得を評価することもあり本学では取得を推奨している。

1) ファッションビジネス能力検定

3級はファッション業界全般の職種で働く上で必要レベルの習得であり両科1年次に受験している。2級は営業・販売系に従事する上で優位となる知識習得でありファッションスタイリング科2年の希望者が受験している。

2) 販売士検定2級

百貨店等の小売企業によっては昇進の際の必須資格としており、本校では学生時代に取得することを推奨している。

3) パターンメイキング技術検定3級

服作り系の職種働く上で必要レベルのパターンメイキングの知識と技術習得でありアパレルプロフェッショナル科2年が必須で受験している。

4) フォーマルスペシャリスト検定

冠婚葬祭におけるドレスコードを理解し業務に生かすことのほか、生徒自身の生活シーンで生かすことを目的とする。

5) 洋裁技術認定

洋裁技術の必要レベル習得としているが、試験内容の時代に合わせた転換が遅れているため、平成 29 年度 1 年生からは受験を休止する。

6) スタイルングマップ検定

色とファッションコーディネートを融合させた内容であり、ファッション業界全般の職種で役立つものである。両科 1 年次に受験している。

<平成 28 年度検定試験受験実績>

検定名称	級	実施日	受験者数	合格者数	学内合格率	全国平均
ファッションビジネス能力検定	3 級	6 月 25 日	62	47	75.8%	63.7%
	2 級	6 月 25 日	35	23	65.7%	45.9%
販売士	2 級	7 月 9 日	49	31	63.3%	51.7%
パターンメイキング技術検定	3 級筆記	6 月 4 日	12	12	100.0%	87.1%
	3 級実技	9 月 10 日	15	14	93.3%	88.3%
フォーマルスペシャリスト検定	準 2 級	1 月 18 日	32	30	93.7%	88.3%
洋裁技術認定	初級	1 月 14 日	11	11	100.0%	—
	中級	1 月 14 日	7	7	100.0%	—
スタイルングマップ検定	ジュニア	7 月 14 日	64	41	64.0%	—

(5) 就職支援

①就職率

科	修業年限	平成 27 年度					平成 28 年度				
		卒業者	就職希望者		進学・その他	就職率	卒業者	就職希望者		進学・その他	就職率
			就職者	未決定				就職者	未決定		
アパレル プロフェッショナル科	2年	10	3	1	6	75.0%	12	8	0	4	100.0%
ファッション スタイリング科	2年	31	29	1	1	96.7%	34	28	4	2	87.5%
ファッション マスター科	1年	0	0	0	0	—	5	1	2	2	33.3%
計		41	32	2	7	94.1%	51	37	6	8	86.0%

* 就職希望者＝就職者＋未決定

* 就職率(%)＝就職者÷就職希望者

【アパレルプロフェッショナル科】

就職希望者に対する就職率は 100%だった。近年店舗数も増え求人の増えているリフォーム業や求人の多い販売職で就職している。企画職に着くことに執着しない学生は就職を優先させ、視野を広げて職種を選んでいる。

【ファッションスタイリング科】

販売職は業界全体で積極的な採用傾向である。優秀な学生は早い時期に内定を獲得し、複数の企業から内定を取る状況であった。目指すべきもう一つの職種にスタイリストがあるが、入学時に 10 名程度いた希望者は経済的安定を求めて販売職に進路変更している。

未決定の学生については卒業後も企業紹介と支援を継続している。

【ファッションマスター科】

就職を希望する者は自身の目標を持っており、ブランドや職種に妥協しない学生達であるため、在学中の決定には至らない学生が多い。卒業後も企業紹介と支援を継続している。

②就職先

大手企業を中心に販売職の採用には大変積極的であり、前年度よりも早いスケジュールで内定を出し、販売員確保に各社必死な状況である。しかし、採用基準を落としてまで採用をする企業は無く、有益な人材であるかの判断として社会人基礎力と仕事への意欲を測る採用試験となっている。売り手市場になったとはいえ十分な採用試験対策をして臨まないと内定獲得はできない状況である。

一方、企画・生産系企業の求人は低調ではあるが、服の「お直し」に特化した業務を行っている企業からの求人は増えてきている。労働力を外国人に頼っていた日本の縫製工場においては「日本人の技術者を育てたい」という意気込みを持つ企業が現れ始め、学生に意欲があれば是非受け入れたいとする企業も出てきている。

スタイリスト業界については、傾向としてアシスタントの採用に積極的ではあるが、待遇面での問題があり経済的支援を得られる学生でないと続けていけない難しい状況となっている。

③説明会・セミナー・面接指導等

<平成 28 年度卒業生に行った 2 年間の就職支援>

平成 27 年 4 月 新入生研修（自ら挨拶できる動機付け）

平成 27 年 10 月 就職支援講座 リクルートガイダンス開講

平成 27 年 12 月 卒業生懇談会（職業研究）

平成 28 年 2 月 学内企業説明会（企業研究）

平成 28 年 3 月 内定者報告会（就職活動の経験談を聞く）

平成 28 年 4 月～7 月 最終面接対策の個別指導

※個別相談は随時実施

(6) 要員・能力開発・組織編成

①教員数（平成 28 年 5 月 1 日現在）

	常勤教員等				非常勤教員
	校長	教員	教務職員	計	
男性		3	0	3	7
女性	1	4	1	6	8
合計	1	7	1	9	15

* 教員の人数は、専修学校設置基準が定める要件を満たす者を算定しています。

②要員

校長を含め 9 名体制の運営である。授業の他に学生募集に関する業務も多く行っている。職業実践専門課程維持のために各委員会の開催や企業との連携授業の交渉・運営といった新たな業務も生まれ、教員一人ひとりが業務の生産性向上と新たな業務への組織的対応が求められている。指導方法向上の研修を 2 回実施した。

③能力開発

<ファッション業界の実務研修>

平成 28 年 11 月 アパレル業界産業機器展視察

平成 28 年 11 月 パリ・ミラノ 2017 S S コレクションセミナー 参加

平成 29 年 3 月 パリ・ミラノ 2017 AW コレクションセミナー 参加

平成 29 年 3 月 パリコレクション視察「YHOJI YAMAMOTO 2017 AW collection」

目的：ファッショントレンド把握・業界情報収集のため

<指導方法向上の研修>

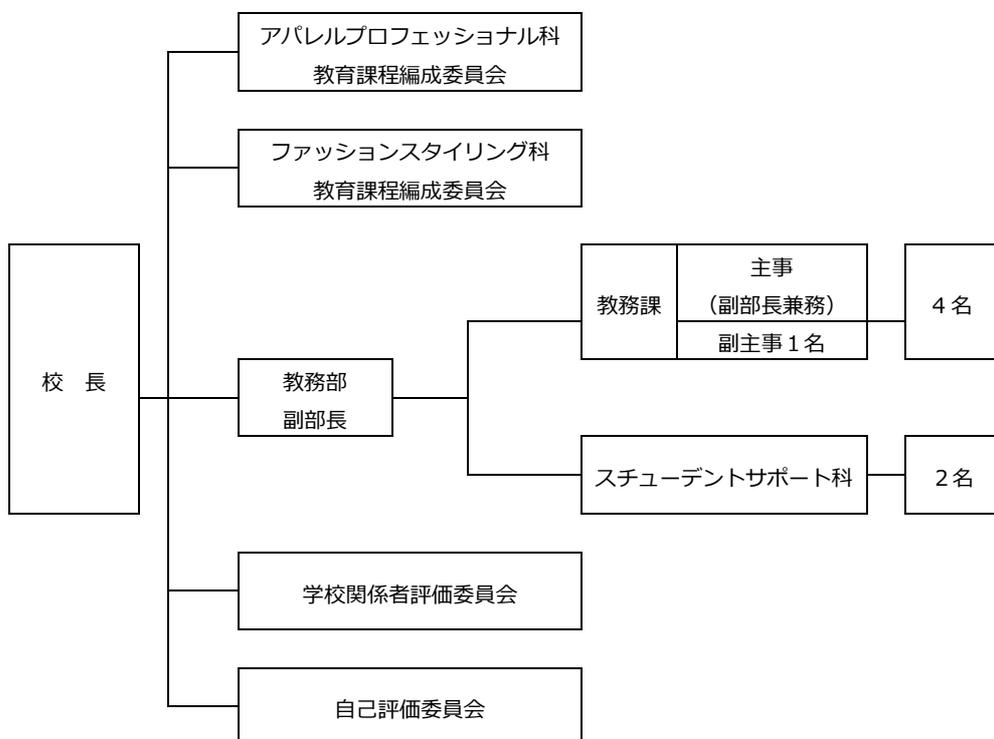
平成 28 年 10 月 「株式会社レイ・カズン」社内研修『接客ロールプレイング』見学

目的：学内での接客ロールプレイング大会実施に向けた運営ノウハウ習得

平成 29 年 3 月 『ルーブリック評価導入研修』

目的：ルーブリック評価導入に向けた理解

④組織編成



【教務課】学習に関する企画・運営・管理。授業評価アンケートの実施。

【スチューデントサポート課】生徒の生活面を中心にした問題について対応。

【教育課程編成委員会】外部委員と教員で構成し各科の教育内容の適正について検討。

【学校関係者評価委員会】外部委員と教員で構成し学校運営の適正について評価。

【自己評価委員会】学内教員で構成し自己点検・自己評価報告書をまとめる。

<その他の部会等>

【就職指導】両学科2年担任と教務部副部長が担当。

【学生満足度調査】両学科の各学年担任より2名選任

【各行事】教員が2～3名程度のユニットを組み運営にあたる。

(7) 施設・設備

①平成 28 年度に营造・修繕・購入等を行った施設・設備

時 期	場所・内容・目的
平成 28 年 4 月	内容：教室内エアコン更新 7 教室分 場所：3 号館 1 F～4 F (学生相談室、ロビー、102・201・202・301・302・401・402)
平成 28 年 7 月	内容：ミシン 30 台 ロックミシン 10 台 場所：3 号館 202 教室 東京都私学財団による教育環境整備費助成金を利用して 3 年間で更新する計画を立てている。平成 28 年度は 2 年目にあたる。
平成 28 年 8 月	内容：校内 Wi-Fi 設備工事 場所：3 号館ロビー、2 F、3 F、4 F パソコン利用の授業が多くなり、全教室で Wi-Fi を利用できる環境に整えた。

(8) 武蔵野ネットワーク

①卒業生との連携

数年前に比べると近年の卒業生は学校を訪ねてくる事が多くなってきている。

『期間限定ショップ【incubate】』『incubate collection ファッションショー』『卒業作品展』の際には卒業生に案内を送付し、同窓生が集まる機会を提供している。

<平成 28 年度 卒業生案内>

期間限定ショップ【incubate】	平成 28 年 9 月 10 日～25 日
incubate collection 2017	平成 28 年 11 月 26 日
後藤学園総合学園祭 ファッション展	平成 29 年 2 月 4 日～5 日

②父母との連携

学生の在学中の生活リズム作りや学費の安定した納入など、学生が充実した学校生活を送るには家庭の協力が必要不可欠である。学生に問題が発生や問題の兆候が出てきた際には速やかに保護者へ連絡し、家庭内で指導を促し学生への支援を求めている。

(9) 地域貢献

地域貢献として豊島区や公益財団法人としま未来文化財団からの協力依頼に対し、学校の特性を生かした協力を継続している。

<豊島区への協力実績>

平成 15 年～平成 28 年 よさこい祭り 審査協力

平成 23 年 豊島区文化祭でのファッションショー出演協力

平成 23 年 オーケストラの衣装デザイン・製作協力

平成 26 年～ソメイヨシノ桜の観光大使選出のコンテストの審査協力

平成 28 年 豊島区国際アート・カルチャー特命大使に片桐芳子校長が就任